

## 「被爆の実相」を学び、伝える

北海道札幌南高等学校定時制 学級数 4 (校長 宮澤 一)

### □ 実践の概要

本校では、地理歴史科や公民科等の授業において、戦争の悲惨さや平和の尊さ、核兵器の非人道性を学んだ上で、全校生徒が協力して長崎平和祈念像の巨大モザイク画を制作し、札幌市民ギャラリーで開催された北海道平和美術展へ出展したほか、道内在住の被爆者の体験手記を基に、有志生徒が朗読劇を校内外で上演した。

#### 1 実践の目的

戦後80年の節目の年を前に、史実としての戦争とその時代背景を、生徒に客観的に捉えさせた上で、日本で使用された核兵器が二度と使われない世界を目指し、生徒が主体的かつ協働的に行動するなど、平和な社会を担う人材を育成する。



【平和学習の様子①】

#### 2 実践内容

##### (1) 実施計画

生徒が、戦争や核兵器について学んだ後、各クラスにおいて、平和と核兵器廃絶を願うモザイク画の制作を進めるとともに、有志を募り朗読劇の稽古を積み、原爆展での出品及び上演を目指す。

ア 教科における取組：出前講座の活用やノーモアヒバクシャ会館の訪問等、平和学習に係る学びの実施

イ 生徒を中心とした取組：モザイク画「嵐の中の母子像」、「平和祈念像」の制作、校内外での朗読劇の披露

ウ 関係機関と連携した取組：北海道被爆者協会、国連NGO新日本婦人の会、北海道平和美術展と連携した平和学習の実施



【平和学習の様子②】

##### (2) 取組の具体

ア モザイク画：A 3用紙 1枚につき約1700のマス目に指定された色を塗り、それを104枚貼り合わせ、縦 2m 90cm・横 3m25cmの巨大モザイク画を作成（制作時間：着色12時間、貼り合わせ4時間）。

イ 朗読劇：「被爆者の証言集」を基にして教員が独自に脚本した朗読劇を作成。5月の連休明けから毎週月・水・金の放課後21時から約1時間稽古し、7月にその成果を全校生徒に披露。また、北海道被爆者協会の主催で開催された「被爆の証言と原爆展」（北海道庁ロビー）で朗読劇を披露。

ウ 平和学習：昨年度から、被爆語り部、シベリア抑留体験者の出前講座、歌手であり被爆2世の松田様による「Hiroshima」歌唱鑑賞を実施し、未来の平和な社会を担う人材の育成に向けた学習を実施。

##### (3) 取組後の点検・評価、工夫改善

朗読劇に取り組んだ生徒からは、「平和な社会づくりに役立つことができるのであれば、お声がけいただければどこへでも伺い、朗読劇を披露したい。」という発言が出るようになるなど、生徒の主体性を引き出すことができた。また、モザイク画の制作を通して、仲間と協働的に学び合い、原爆や戦争を自分事として捉え、行動する生徒が増加した。これらのことから、次年度も引き続き、生徒の主体性や協働性を高める平和学習に取り組むたいと考えている。

##### (4) 改善後の取組

モザイク画は、平和美術展でも高評価を得た。次年度は「焼き場に立つ少年」をモチーフに、被爆の証言を書き入れるなどして、一層、当事者意識をもって平和学習に取り組むことができるよう工夫・改善を図る。また、朗読劇は、広島で被爆した道内在住の被爆者の手記を基に教員が脚本・演出等を担当したが、次年度は、手記の脚本化、演出や稽古の日程調整等の運営を生徒に委ね、より一層主体性を重視した取組とする。

#### 3 実践のポイント

- ・戦争については、史実だけでなく、今日的なニュースや話題を提供しながら伝えたこと。
- ・被爆や空襲の被害の側面だけでなく、大戦における我が国の行為への反省も込めた内容としたこと。
- ・モザイク画の制作については、グループで実施し、コミュニケーションも重視して取り組ませたこと。
- ・朗読劇については、体験手記の黙読から始め、途中でノーモアヒバクシャ会館の見学や「はだしのゲン」を視聴し、段階的に戦争への理解を深めてから稽古に励んだこと。